

第26回 「なぜなぜ分析」ワンポイント応用編

ここでは、拙著の本に紹介していない応用編について、紹介したいと思います。（ただし、いつか活字になるかも(?)しれません。お約束できませんが……………）

あわせて、「なぜなぜ分析」の基本については、ぜひ当社ホームページ、インフォメーションに記載の書籍等をご覧下さい。

2007年 2月 12日

有限会社 マネジメント・ダイナミクス

小倉 仁志

jin-ogura@management-dynamics.co.jp

「動詞」の中味に目をつけよう

問題解決するときに、そこで登場する「動詞」にあまり気を配らず、検討していませんか。

以外にもその「動詞」の中味を検討することで、新たな筋道が浮かび上がってくるのが少なくありません。

例えば以下の動詞について、ほとんどの人がそれを聞いたときに、すぐにその内容をわかったつもりになっているのですが、実はまだまだあいまいな部分が残っているのです。

原因がわかりやすい問題の場合は、そこそこのあいまいさがあっても、なんとか原因を導けるかもしれませんが、難しい問題を解く場合などには、それでは困るのです。

詰まる 切れる 飛ぶ (音が)出る たまる
下がる 固まる 止まる

つまり、それぞれの動詞には色々なパターンがあって、その中味を明確にしないと次の「なぜ」のつながりが明確にならないのです。

「詰まる」	に対して	「詰まりかた」
「切れる」	に対して	「切れかた」
「飛ぶ」	に対して	「飛びかた」
「(音が)出る」	に対して	「(音の)出かた」
「たまる」	に対して	「たまりかた」
「下がる」	に対して	「下がりかた」
「固まる」	に対して	「固まりかた」
「止まる」	に対して	「止まりかた」

しかし、このようなものは言葉で表現するのが非常に難しい場合が少なくありません。

できる限り、その言わんとしている事をマンガで描いてその内容をはっきりさせる必要があります。

誰ですか。絵が下手だから「どうし」ようなんて言っている人は。

動きを表現するのは非常に難しいことですが、表現できるかどうかよりも、「動詞」が出てきた場合には、それにこだわって関係者の皆で話し合ってみましょう。

きっと解決への糸口が見つかるはずです。

では、また。

以上